

進捗状況報告シート

(2011年度・大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	教職教育研究センター
大項目	4 教育研究組織
中項目	
小項目	4.0.1 大学の学部・学科・研究科・専攻および附置研究所・センター等の教育研究組織は、理念・目的に照らして適切なものである
要素	教育研究組織の編制原理
	理念・目的との適合性
	学術の進展や社会の要請との適合性
	(KG1) 研究活動の状況
小項目	4.0.2 教育研究組織の適切性について、定期的に検証を行っているか。
要素	

II. 自己点検・評価(2010.5.1~2011.4.30の進捗状況報告)

《目標・指標》

本項目において、2009年度~2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の評価を行っている。進捗評価はA~Dの4段階とし自ら評価した。A~D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 本学における教員養成の望ましいあり方という観点から、教育学部との関係を明確化するとともに、同学部との連携を図る。	→教員養成を主たる目的とする、所謂目的学部としての教育学部と、一般学部の教員養成を担当する教職教育研究センターという棲み分けを明確にするとともに、実務面での連携が可能なところは連携を図る。	B	B			
2. 教職課程履修者数の急増と業務内容の多様化による過重負担を軽減するために、早急に上ヶ原キャンパスの教育研究組織の改善と神戸三田キャンパスの格差是正を図る。	→上ヶ原キャンパスに専任教員の増員。また神戸三田キャンパスに専任教員及び専任事務職員を配属することによる教育研究組織の充実。	D	D			
3. 文部科学省の実施視察に向けて、教職課程の全学的・組織的な指導体制を強化する。	→センター評議会等、教職に関する全学的協議体の活性化(本学における教員養成の望ましいあり方や教職教育研究センターと教育学部との関係等について全学的立場から検討する機会を設ける等)と、学長府との連携の強化(定期的な情報交換の場の設定等)による全学的・組織的指導体制の整備。	B	B			

☆

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

◎改善すべき事項 ※目標の進捗評価が「D」の場合は必ず記述してください。

【点検・評価 (2)】改善すべき事項		注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。
★	小項目4.0.1	他大学に比して、5名という専任教員はあまりにも少なく、また「教職実践演習」の導入や「教員採用試験」などに対応するための実務家教員も皆無である。また、神戸三田キャンパスには、専任教員はもとより専任職員も配属されておらず、アルバイト職員2名と上ヶ原キャンパスから専任職員が、適時出向する形で対応しているのが現状である。学部の新設、学科の増設が進み教職課程履修者が急増する中、人事面での早急な改善が必要である。
	小項目4.0.2	
	その他	

↓

《次年度に向けた方策(2)》改善方策		注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。
★	小項目4.0.1	本年度中に、専任教員1名と実務家教員2名（任期制教員B、上ヶ原キャンパス1名、神戸三田キャンパス1名）増員の実現を目指して、センター評議員会などに働きかける。
	小項目4.0.2	
	その他	

◎自由記述

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】	
★	その他 (自由記述)

III. 学内第三者評価

<評価専門委員会の評価>

- 教職教育研究センターの努力のみでは達成できない目標についても、関係各部署との連携によって少しでも状況が改善されるように努力されることが期待されます。
- 2013年度の教育学部再編の全体像が見えてこない現時点でも、とりあえず、完成に向けて年次進行中の教育学部との関係を模索し、センターとしての従来の職務の範囲内で、かつ、近時の職務拡大傾向の中で、成果を着実に挙げていくことが期待されます。他方で、それとは別に、再編にむけてのセンターとしての意見は、大学執行部に十分に反映させてもらうよう努力することが期待されます。目標1は、「目的学部」（教育学部）の教員養成と「一般学部」（教育学部以外）の教員養成という棲み分け（別組織の維持）を明確にするとの路線ですから、目標2（専任教員増等）は、目標1の枠組みの中で進めていくものと理解されます。
- 「教育学部の再編」が出てきますが、現状説明において、大学における組織について説明を加えられれば学外者にも分かりやすいと思います。
- 「0 理念・目的」の内容を整理され、本項目に含めたり表現を修正したりするなどをお考えください。

【大学基準協会:評価に際し留意すべき事項】

- 小項目4.0.1
基盤評価：なし
達成度評価：「教育研究組織が、当該大学、学部・研究科等の理念・目的を実現するためにふさわしいものである」
- 小項目4.0.2
基盤評価：なし
達成度評価：「検証を実施する体制を整備し、責任を明確にするなどしたうえで、教育研究組織の適切性について、恒常的かつ適切に検証を行っている。

IV. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

★	指摘された、項目の移動等については、次年度評価に反映させていただきます。
---	--------------------------------------